



理事長 大出 重光

【ごあいさつ】

皆さまにおかれましては、平素より当金庫に格別のご愛顧と温かいお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当金庫の第104期（令和7年度）における事業概況ならびに決算業績を取りまとめた本ディスクロージャー誌を通じて、私どもの現在の姿と経営内容についてより一層のご理解を深めていただければ幸いに存じます。

令和7年度の国内経済は、先行きの不透明感を伴いながらも、賃金上昇に伴う個人消費の底堅さや設備投資に支えられ、緩やかな回復をみせました。しかし、物価上昇の長期化、実質賃金のマイナスや中東情勢の悪化をはじめとする地政学リスクなど、依然として予断を許さない状況が続いております。また、日本銀行による利上げなど「金利のある世界」への移行が令和7年は緩やかに進み、年が明け令和8年から本格化してきております。コスト高や人手不足に直面する地域の中小企業を取り巻く環境は、一段と厳しい状況が続いています。

このような環境下、当金庫は中期経営計画「“夢・愛・熱”『未来への挑戦』」の2年目にあたり、「共存共栄」の好循環による持続可能な社会の創出を目指してまいりました。

令和7年度の業績につきましては、定期預金の減少などから預金積金残高は前期比4.8%減の1兆5,052億円、貸出金残高は前期比3.1%減の6,819億円となりました。一方で収益面においては、株式相場が上昇したことも重なり、有価証券売買損益等により、経常利益は前期比25.2%増の214億円、当期純利益は前期比25.2%増の156億円という結果となりました。

また、市場金利が上昇する中、一部の信用金庫など地域金融機関が保有する債券の評価損が拡大していると話題になりました。当金庫は保有する債券を適時適切に管理してきた結果、評価益を確保することができ、金融機関の健全性を示す指標である自己資本比率は18.16%と、前期末17.11%から1%以上の上昇により財務基盤は一段と強固なものとなりました。

令和8年度は、中期経営計画の最終年度を迎えます。国内経済は底堅い推移が予想されるものの、為替や金融市場の動向には十分な注意が必要です。当金庫は「相互扶助」の理念のもと、これまで以上に「お客様との深い対話」や「地域社会との連携強化」を実行してまいります。そして、地域の皆さまに寄り添い、地域社会の発展と幸福に貢献する経営に役職員一丸となって邁進する所存です。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年7月
理事長 大出 重光